

## 10月 月例報告書

### 1. はじめに

アメリカでの留学生活が始まり、とうとう3ヶ月目に突入しました。10月のオハイオ州は、樹々が赤や黄色に染まり、過ごしやすいい秋のような景観が広がりますが、気候はとても暖かい日もあれば、気温が氷点下に達し、耳が痛くなるほど寒かったりと日本の10月とは大きく異なります。今月は私が経験し、印象的だった5つの出来事をこの報告書に残したいと思います。

### 2. Culture Connection

私は、IELPのクラスの他に、コーラスの授業と「Culture Connection」という日本人の川村先生が担当している授業を履修しています。この授業の一環として、川村先生が私たちにこの活動に興味のある5人の高校生を紹介してくださいました。私たち留学生2人と1人の高校生が1つのグループになり、今月から活動をスタートしました。私は、韓国にルーツを持つ高校生と同じグループになりました。週に1度共に互いの文化を体験できるような活動を行います。私たちのグループは、初回は日本文化である折り紙を彼に紹介し、その後は彼の家に招待していただき、韓国料理と一緒に食べ、ゲームを行いました。彼は韓国にルーツ持っていますが、アメリカで生まれ育ったため、2カ国の文化を体験することができ、毎週の活動がとても勉強になっています。また、一緒にお好み焼きを作って互いについて、質問をしたり、日本文化についても紹介することができているので、この活動をすることができて、本当によかったと思っています。

### 3. Hamtramck

10月5日に「Culture Connection」の授業でミシガン州のHamtramckという都市に行きました。そこでは、「Hamtramck Historical Museum」に行き、館長さんのお話を聞いたのち、「Kosciuszko Middle School」に行きました。Hamtramckは人口の過半数をイスラム教徒が占めています。博物館ではHamtramckの歴史や彼らがどのようにしてアメリカにきたのか、そしてどのようにHamtramckで過ごし、彼らの文化を守っているのか教えていただき、バスと一緒に街を回りました。街には多くのヒジャブを被った女性が歩いており、イスラム教徒の衣服である、アバーヤやニカブを販売するお店も多くあると同時に、公園にはアラブやイスラム系の子どもたちがたくさん遊んでいました。フィンドレーは人口の約8割以上を白人が占めています。ですがHamtramckでは寧ろ白人がマイノリティであるように感じました。館長さんのお話によると、彼らは親族などを頼ってこの街に来るそうです。いくら英語を話すことができなくとも、彼らはHamtramckを訪れ、仕事をし、家族と共に生活をします。館長さんは他の国から訪れた人が言語や衣服、食事などをその土地に合わせ、現地化するのではなく、彼らは彼らの文化を守りながら共生することはとても意味のあることだとおっしゃっていました。私は、アメリカに来る前、現地に馴染むような服を選び持つ

てきたり、こちらでの生活が長くなるにつれて、どのような見方が「アメリカっぽい」のか考えるようになりました。ですが、ネイティブの友人たちは、私たちの日本人らしい服装や持ち物をよく褒めてくれます。そして、彼らと一緒に日本料理を作り、日本文化を紹介するととても喜んでくれます。アメリカに来て、日本を誇りに思う気持ちがとても大きくなりました。それは彼らが私たちの文化を尊重し、興味を示してくれたからだと思います。静岡文化芸術大学では多様性や多文化共生を学んでいましたが、アメリカに来て、本当の多文化共生を学ぶことができていると思います。私の留学の目的は、英語の学習だけではなく、人種や文化について実際に体験し、学びを深めることでもあったので順調に目的を果たすことができている気がして、本当に楽しいです。

「Kosciuszko Middle School」は、英語を母国語としない子どもたちのために作られた学校です。子どもたちの多くは、アフガニスタンや、サウジアラビア、イエメン、ウクライナなどから安全のために難民としてアメリカに来た場合がほとんどでした。私たちは、彼らと一緒に日本の紹介と折り紙、けん玉、ダルマ落とし、じゃんけん列車、そして日本のお菓子を楽しみました。初めは「你好」と声をかけられ、戸惑いましたが、彼らの相手の言語を使って挨拶をしようとする気持ちがとても温かかったです。「Kosciuszko Middle School」では英語の他に、もちろん数学や理科、地理や世界史、アメリカ史なども教えるそうです。彼は本当にフレンドリーで優しく、日本の文化や私たち自身について一生懸命学んでくれました。一生懸命学んでくれると同時に、自分の国についてたくさんのことを教えてくれました。国旗の意味や食事、現在の自国の戦争の状況など、彼らは今アメリカで生活していますが、自分の国について、誇りを持っていました。先生によると、文化の違いから配慮する点が多く、また保護者とのやりとりも翻訳機を使ったり、その言語に明るい職員が対応したりと、他の学校に比べ特別な点が多いそうです。また、日本のお菓子を食べる際もある子どもに「鶏肉は使用しているか」など聞かれたり、ニカブといわれる目の部分のみ開いており、あとは全て覆われているベールを身につけている生徒がベールが取れないように食べていたりなど宗教の違いを感じました。活動が終わり、帰る頃には「Are you coming tomorrow?」や「We gonna miss you」など声をかけてくれ、「I love you」と言ってハグをしてくれた時は本当に涙が出そうでした。私はこの時のアメリカに来て初めて「I love you」といった感じがします。とても素敵な言葉をかけてくれる彼らと交流することができて幸せだったと同時に、先生方が子どもたちに温かい言葉をかけてきたのだろうと先生方の彼らへの愛情を感じました。私は家族からのサポートも受け、望んでアメリカに来ましたが、彼らは命のため自国から幼い年齢で言語も文化も違うアメリカにやっとの思いで避難してきました。私はこの活動で一生忘れることのできない経験をしました。彼らのバックグラウンドを想うと本当に心の底から世界の平和を願います。

#### 4. Fall break

10/6～10/10 まで秋休みでした。10/7 はネイティブの友達とコロンバスでショッピング

をして、カーディーラーに行きました。コロンバスには大きなモールのほかに日本の食材を買うことができるスーパーや日本のコスメなどが買えるお店があったので、久しぶりに日本の製品を見て感動しました。また、彼はとてもお金持ちなので、彼が以前車を購入したカーディーラーに親戚を装って着いて行き、高級車の試乗をしました。将来、私もあのような車を買えるような大人になりたいです。10/9, 10/10 はナイアガラの滝を見るためにカナダに行きました。友人が車で乗せて行ってくれたので、初日の天候は雨でしたが、移動がとても楽で、ボートに乗って滝の近くまで行くことのできるツアーや食事など存分に楽しむことができました。ナイアガラの滝はアメリカ側とカナダ側、2つの方向から見ることができですが、カナダから見る方が壮大な上に、現在カナダドルはアメリカドルより安いので、カナダで見ることをお勧めします。カナダとアメリカを繋ぐ橋を渡り、徒歩で国境を跨いだことは良い思い出です。

#### 5. Concert

10/21.10/22 はコンサートのためにシカゴにネイティブの友人と日本人の友達 2 人と行きました。シカゴではシカゴ美術館、チャイナタウン、シカゴピザを楽しみました。ここでアメリカで初めての電車も体験しました。アメリカのコンサートは本当に熱気がすごく、歓声だけでなく、みんなで歌ったり、踊る人もいて本当に楽しかったです。留学に来る前から、アメリカで絶対にアイドルのコンサートに行くことを心に決めていたので、私の留学中のバケットリストの1つが叶い、本当に幸せな体験でした。素敵な経験をさせてくれた友人たちに感謝です。

#### 6. Halloween

10月といえばハロウィンです。ですがアメリカは9月中旬からすでにカボチャが飾られ、準備万端です。私は、カボチャに絵を描き、ハロウィンの仮装ビンゴ、クラスの先生が企画してくれたクッキーデコレーション、ダウンタウンのハロウィンパレードに参加しました。ハロウィンパレードではお菓子をもらいました。私のハウスもハウスメイトたちが飾り付けをしていたので、気持ち程度に私が絵を描いたカボチャも玄関に置いておきました。アメリカのハロウィンは本当に盛大で、外に出ると仮装をした人たちをたくさん見かけました。ハウスメイトたちは仮装をし、家でパーティーを開いたり、クラブに出かけて行き、アメリカではハロウィンはとても大きなイベントであるということを感じました。

#### 7. 最後に

今月は初雪が降りました。そして私は髪を染め、ピアスを2か所開けました。10月は本当に忙しい毎日でしたが、その分本当に素敵な経験をさせていただいています。私の英語力が伸びたと褒めてもらえる機会も増え、忙しくも充実した毎日を送っています。本当に時間が過ぎるのが早いと思います。5月の帰国まで悔いの残らないように、友人たちとの限られた時間を楽しみたいです。

